

# しおんだより VOL.40



## 地域医療連携の基本は、薬薬連携の充実から

少子化と高齢化が同時に進行する我が国で、「保険証1枚あれば、安心して安全な医療が受けられる」という世界に冠たる国民皆保険制度を堅持していくためには、様々な工夫や取組が必要になります。その代表的なものが「地域包括ケアシステム」という仕組みですが、2013年に厚生労働省から提唱され、年を重ねても住み慣れた地域で最後まで過ごすことができる仕組みを、医療も介護も福祉も一緒になって考えて行く取組が、日本全国で進んでいます。

土曜日の午後4時から開始の講演会。業務を終えた薬局薬剤師のみなさんにお集まりいただきました。

そんな中、最近、良く目にするのが「ときどき入院、ほぼ在宅」という言葉です。基本は、ご自宅や介護施設で、外部からの医療や介護を受けながら過ごし、それらのサポートだけでは体調が回復しないときには、病院で入院。そして、そこでの治療が済めば、速やかに、自宅や施設に戻る…。そんなイメージでしょう。

実際、最近では当院でもそのような方が増えていることを実感します。入院の時には、その前にどのような薬物治療を受けておられたかということ、薬局薬剤師さんが把握している範囲で病院薬剤師に伝えることは重要です。一方、退院の時には、入院中にあった処方変更の内容やそれによる症状の変化などを病院薬剤師が把握し、退院後のお薬を担当する薬局薬剤師に伝えることも重要です。これらの情報は医師とも共有されますので、継ぎ目のない医療連携が可能になると思います。つまり、シームレスな地域医療連携が求められる今、質の高い薬薬連携が今まで以上に重要になっていくでしょう。

## 4年ぶりぐらいに人間ドックを受診しました

これといった症状や身体の不調がなければ、なかなか自分の健康管理には目が向きにくいものです。私も同じで、ある程度の年齢になってきたこともあり、節目節目では人間ドックを受けないといけないな、と思いながら、新型コロナウイルス感染症のこともあり、ついつい先延ばしになっていました。ただ、紺屋の白袴、医者の不養生という言葉もあるように、私たち医療従事者も、やはり、自分の健康管理には気を遣わなくてはなりません。そんな思いが、昨年後半から強くなり、えいやっと予約を取ったのが11月ごろ。年が明けて、何度か御世話になっている人間ドックで色々調べてもらいました。

まあ、全身を色々検査するのですが、大腸内視鏡検査も受けました。検査前には2リットルの下剤を飲んで、看護師さんに指示された通り、部屋をうろうろしてトイレとの往復をしておりました。普段、自分も色々な検査の指示を患者さんに出していますが、受けてみると色々気がつくことがあり勉強になりました。結果は、大きな病気も指摘されませんでしたので、またがんばります。



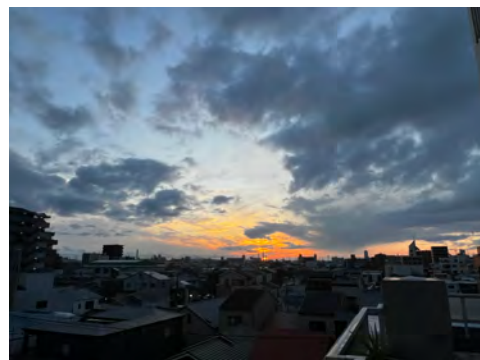
検査を受ける側になってみると、色々なことに気がつくことがありますね。

## 病院の廊下から感じる季節があります

朝仕事を始めたと思ったら、なんだかんだと仕事があって、気がつくともう夕方…。病院ではそんな毎日の繰り返しでもあります。

季節によって日没の時間が異なりますが、この季節、ちょうど夕暮れの時間帯に終業時刻が重なることが多いのです。

雲一つ無い空をバックに、大阪南港の方角へ沈んでいく夕陽を眺められる時があれば、雲が夕日に照らされて、きれいな夕焼けが見られる時もあります。「お、これは！」と思った時には、ベランダにちょっと出てみて、しばらく眺めたり、スマホのカメラでパチパチ撮ってみたりするのですが、一日の疲れがちょっと和らぐような気がする、癒やしの時間でもあります。忙中閑あり、そんな言葉があったなと思い出すのも、こんな時です。（文責：狭間研至）



一日の仕事を終えて、医局への廊下を歩いていると、時々きれいな夕空を目にします。

しおんだより 第40号 発行日：令和6年2月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: [www.shion-hp.or.jp](http://www.shion-hp.or.jp)